

# 寺子屋とその師匠

史学班 (徳島史学会)

稲飯 幸生\*

## 1. はじめに

藍住町は吉野川下流の肥沃な土地に恵まれた豊かな地域である。『藍園村志』(刊行年不詳)には、「本郡は比較的教育が早く開けた地方であるから、我村も夙にその影響を蒙ったであろう」とあるように、中世においては勝瑞城があって阿波国の政治的な中心であり、その後も藍などの生産により経済的に豊かな地域であった。そのような関係もあってか、住民の文化水準は高く、古くから教育に対する理解関心は深かったようである。

町内の寺子屋師匠は30人を数えるが、その数は他町村より多い。とくに寺子屋師匠が同じ家で何代も継続されているのはめずらしい。また、指導内容についても、単に「読み書き」のみを教えるのではなく、躰、常識についても指導した記録が残っている。

何代にも亘って寺子屋を継続したのは三沢家・小倉家である。この両家の寺子屋は明治5年の学制頒布により閉鎖することになったが、両家ともに寺子屋を中心として、私立徳命小学校(小倉家塾)・私立奥野小学校(三沢家塾)を開校した。この2校は明治14年(1881)に奥野・徳命・東中富の3村による「阿波国板野郡公立養徳小学校」となった。この小学校は、その後、長年の経緯を経て現在の藍住南小学校となっている。

また、『日本教育史資料』(明治25年文部省蔵版・富山房刊行)には、三沢永一、天羽義太郎・高橋徹齋の名がある。

## 2. 三沢家の寺子屋師匠

### ・佐々木丹治

奥野で寺子屋を開いた。正徳・享保より明和9年まで活躍した。明治まで6代の間寺子屋を続けた三沢家の開祖である。

### ・佐々木栄助

丹治の5男で漢学者である。宝暦(18世紀)以後、文化年間まで活躍した。



写真1 三沢家の墓地

### ・三沢良慶

徳命村元村の医家である三沢玄以の子。明和・寛政(18世紀後半)ころ活躍した。儒医(漢方医)で佐々木家の養子となったが、三沢姓をとらえた。安永より文化年間まで活躍した。

### ・三沢春儀

良慶の子。寺子屋をかねて医業を始める。寛政・

\*1 神山町下分

嘉永のころ活躍。嘉永2年（1849）9月18日没。奥野字原の墓には台石に門弟中とあり夫人とともに葬られている。弟の懐徳（雲峯）は別家して徳命村前須で医業を始めた。

#### ・三沢泰策

春儀の子で医師。文政・天保のころ活躍。弟子が150人ほどあったという。天保10年（1839）5月28日、44歳で没した。奥野字原に墓があり夫人とともに葬られている。墓の側面に「嗣子永一与総門弟相議建立之」とある。

#### ・三沢永一

佐々木泰策の子。孤山と号し、漢文学に素養があった。安政以降明治7年まで続いた寺子屋を閉じた後、私立奥野小学校校長となったが、この学校は明治14年に徳命小学校と合併して公立養徳小学校となった。明治33年（1900）2月26日に70歳で没した。墓は奥野字原にあり、夫人とともに葬られている。墓の側面に「本姓佐々木、諱永一号孤山。此三沢翁遺徳碑なり」とある。

永一については『日本教育史資料』（明治25年文部省蔵版）には次の記載がある。

学科	漢字・習字・算術
旧管轄	板野郡
所在地	奥野村
開業	享保19年
廃業	明治3年
男女教師	1
男女生徒	男160 女40
隆生年代	記事なし
調査年代	明治4年
身分	浪人

### 3. 小倉家の寺子屋師匠

#### ・小倉孫之丞

寛政6年徳島の佐古から奥野にきて家塾をひらいた。弟子は毎年150人ほどあったという。文政11年（1828）6月19日に65歳で没した。千光寺の墓には台石に門弟中の文字があり、夫人とともに葬られている。

小倉家は主君の細川持隆の仇である三好義賢と戦って戦死した小倉美濃守佐助の子孫といわれている。

#### ・小倉利郎

孫之丞の次男。天保以後寺子屋をひらきおもに習字を教えた。明治4年（1871）8月5日65歳で没した。

門弟150人といわれ小倉家裏の墓地に夫人とともに葬られている。

#### ・小倉道太郎

利郎長男。熨斗折方・吹笛・方位・人相見を得意とした。門弟は150人といわれ、安政以後明治6年（1873）まで活動した。明治7年、私立徳命小学校を創立し校長となったが、この学校は明治14年には私立奥野小学校と合併して、公立養徳小学校となった。

#### ・小倉荘蔵

道太郎長男。習字を得意とし、明治5年頃まで祖父及び父の手伝いとして子供を教えた。後に小学校教師となった。小倉家は荘蔵まで4代の間家塾を続けた。



写真2 千光寺墓地にある小倉孫之丞の墓

### 4. その他の寺子屋師匠

#### ・中村直左衛門為利

宝暦年間に猪熊以北、富吉方面の子弟を教育した。寛政2年ごろ迄寺子屋をひらいた。

#### ・東條新助

元治・慶應のころより東中富敷地で寺子屋を開き、弟子が70人といわれた。明治6年まで活動した。

・河田富五郎

東中富敷地で医業の傍ら子弟を教えた。弘化4年(1847)10月29日没、76歳であった。もともと阿波藩士の家系であるが。延宝年間にこの地に移り、藍師株を得て富裕であったという。

・稲垣蕉陰

竹瀬たけのせの人。若くして京都にでて8年間漢方医の修業をし、俳句もよくし道古と号した。晩年は病弱であったが河田塾で子弟を教えた。明治22年(1889)5月5日61歳で没した。

・安芸慶助

天保のころ祖母ヶ島うばがしまで寺子屋をひらいた。

・生島文太

安政のころ撫養から祖母ヶ島に来て寺子屋をひらいた。

・曾我部達吉

慶應のころ板東からきて祖母ヶ島で寺子屋をひらいた。

・寺沢多寛

慶應のころ板東から祖母ヶ島に来て寺子屋をひらいた。

・山田英寿

慶應以前に小塚で弟子30人に読書・算術を教えた。小塚の墓地に墓があり、「山田先生祈念碑」とある。台石には門弟中の文字があり、世話人の名が刻まれている。すぐ傍らに同じく寺子屋師匠の高畠定之丞の墓がある。

・藤田右源太

小塚で寺子屋をひらいた。

・橋本喜代治

小塚で寺子屋をひらいた。

・高畠定之丞

小塚に生まれた漢学者であるが対岸の東黒田に寺子屋を開いた。文化14年(1817)1月18日、77歳で没した。

小塚の墓地に墓があり、夫人とともに葬られている。墓の台石には門弟中の文字とともに、門弟の住所である村々の名がある。池尻村・東桜間村・井戸村・西桜間村・内谷村・観音寺村・日開村・府中村・一楽村・川原田村・敷地村があり、それは現在の徳島市国府町・名西郡石井町の地域である。

・斉藤藤花

名田なだで子弟を教えた。

・中川虎太郎

名田で寺子屋をひらき、読書・算術・習字をおしえた。門弟は男子37人、女子16人であった。

・鎌田猪十郎

斉藤藤花と同じ頃名田で子弟を教えた。

・深尾達吉

明治の初めに徳島より来て寺子屋を開き、明治6年ころまで継続した。徳命新居須に住み、俳句をよくし弟子が70人ほどあった。

なお、『日本教育史資料』によると「寺子屋」の項に次の2人についての記載がある。

・高橋徹齋

生年	記事なし
没年	〃
住所	〃
学科	読書・算術・諸礼・習字
旧管轄	徳島領
所在地	住吉村
開業	慶應2年
廃業	記事なし
男女教師	1
男女生徒	男41 女9
調査年代	明治5年
身分	平民

・天羽義太郎

生年	記事なし
没年	〃
住所	〃
学科	読書・算術・諸礼・習字
旧管轄	徳島領
所在地	矢上村
開業	慶應元年
廃業	記事なし
男女教師	1
男女生徒	男38 女8
調査年代	記事なし
身分	士

・井川純策

もともとは医者であるが有竹と号し、漢文・俳

諧・書道に巧みで弟子を教えた。富裕な家で安政6年には藩へ50両上納したこともある。師匠の岡田寿軒の墓銘は純策の撰並書になるものである。明治11年(1878)7月没した。

・岡田栄左衛門

寿軒と号した。儒家であり剣道・謡曲・華道にすぐれていた。文政9年(1826)5月16日に38歳で没した。乙瀬の弟子達の建てた墓には、正面に「寿軒岡田先生之墓」とあり、門弟800人といわれた。

・岡田円平

栄左衛門の子で父のあとを継ぎ乙瀬で寺子屋をひらき習字などを教えた。明治22年(1889)8月13日没。71歳であった。

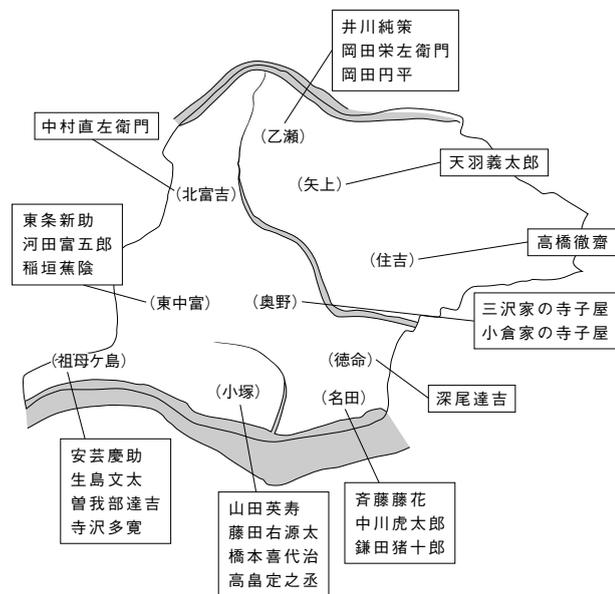


図1 藍住町の寺子屋師匠

5. おわりに

藍住町の調査するにあたり、地域の人々の厚いお世話に感謝したい。資料については木南茂美氏の提供された『徳島県藍住町の史雲』は大いに参考にさせていただいた。

上巻は昭和59年1月発行、106頁

下巻は昭和58年4月発行、200頁

別巻(詩風)昭和56年9月発行、158頁

著者は故人であるが、藍住町出身で大阪府に住んでおられた郷土研究家の近藤史恒氏である。

内容は藍住町内の社寺・旧家、石像、城跡などについての調査で、自筆のペン字の詩と写真のコピーを貼付したものである。

この著作について近藤氏は上巻の結文に次のように述べられている。

「郷土史を研究すること十五年間の久しきに渉り、幾百回か往復したが、異境にあるため、接触観察が不十分で、あれこれと存念が繰り返されて、この道を辿る者の孤独に遭遇し、その境地を超えて諦観に慣れ、不屈の孤高を醸成した。『藍住町の史雲』上下巻を茲に完了して顧みるに譬え拙なきと雖も、他県の郷土史にない独特の叙事詩態が、郷土史上且つてない新鮮味を注入して、模倣性のない内容を提起したと思っている(以下略)。」

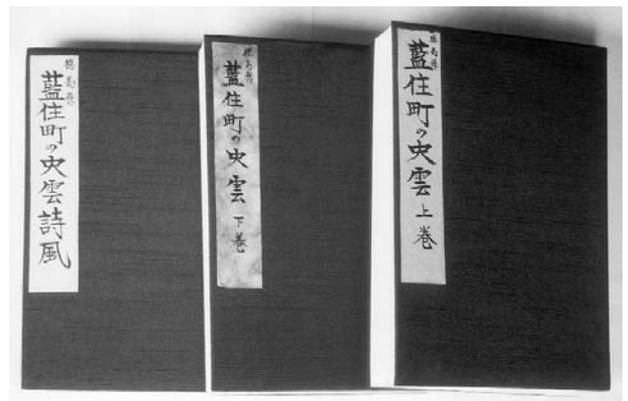


写真3 徳島県藍住町の史雲

参考文献

藍園村志(刊行年不明): 藍園村志編集委員会編。  
 藍住町史(昭和40年): 藍住町史編集委員会編。  
 藍住町の史雲: 前述。  
 藍住南小学校百年史(昭和50年3月): 藍住南小学校百年史編集委員会編。  
 住吉村誌稿(昭和27年): 住吉中学校編。  
 日本教育史資料(明治25年): 文部省蔵版。

資料提供・協力者

木南茂美 藍住町矢上、小倉泰治 藍住町奥野  
 正木博之 藍住町奥野、大家善子 藍住町勝瑞